

第2次

# 南丹市 総合振興 計画

基本構想

概要版

2018年3月



# 計画策定にあたって

## 計画策定の趣旨

社会情勢の変化等によるさまざまな課題に対応しながら、南丹市の魅力や特徴を生かし、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めるため、2018年度以降の『まちづくりの方針』となる「第2次南丹市総合振興計画」を策定します。

また、南丹市の人口は、2060年には18,000人程度にまで減少することが予測されていることから、「南丹市定住促進アクションプラン」や「南丹市地域創生戦略」の取り組みに続き、本計画においても「定住促進」を重点テーマに掲げていきます。

## 計画の特徴

市民の声を生かした  
市民にわかりやすい計画

社会経済情勢の変化に  
的確に対応する計画

個別計画との連携を強化し  
実効性を高めた計画

## 計画の構成と期間

第2次南丹市総合振興計画は、「基本構想」と「実施計画」の2層により構成します。

<b>基本構想</b>	<p>南丹市のめざすべき将来の方向性を明確に示し、市民や事業者等と共有するとともに、具体的な成果指標を掲げ、達成のための施策等の方向を体系的に定めます。</p> <p>計画期間は、2018年度から2027年度の10年間ですが、社会経済情勢や市民ニーズの急激な変化にも対応できるよう、5年をめぐりに見直しできるものとします。</p>
<b>実施計画</b>	<p>基本構想に定めた施策の方針を財政的な裏づけをもって実施していくため、具体的な事業として示すものです。3カ年の計画を見直ししながら毎年度策定します。</p>

## 関連する個別計画等

- (1) 南丹市地域創生戦略との整合
 

南丹市地域創生戦略の計画期間である2019年度までは、戦略の各施策を本計画の重点施策と位置づけます。
- (2) その他の個別計画等との整合
 

都市計画マスタープランや地域福祉計画など、関連する個別計画等との整合を図ります。

## 計画策定の体制

本計画を策定するにあたっては、市民と行政がともに南丹市の未来を考える計画づくりを策定方針とし、市民意識調査や団体ヒアリング、市民ワークショップ、パブリックコメント（市民意見募集手続）などを通じて、市民が計画策定にかかわる機会を数多く設けました。

市民のニーズや意見をベースに、庁内において計画の原案を作成した後、南丹市総合振興計画審議会への諮問・答申を経て、市議会の議決を得て、「第2次南丹市総合振興計画」を策定しました。

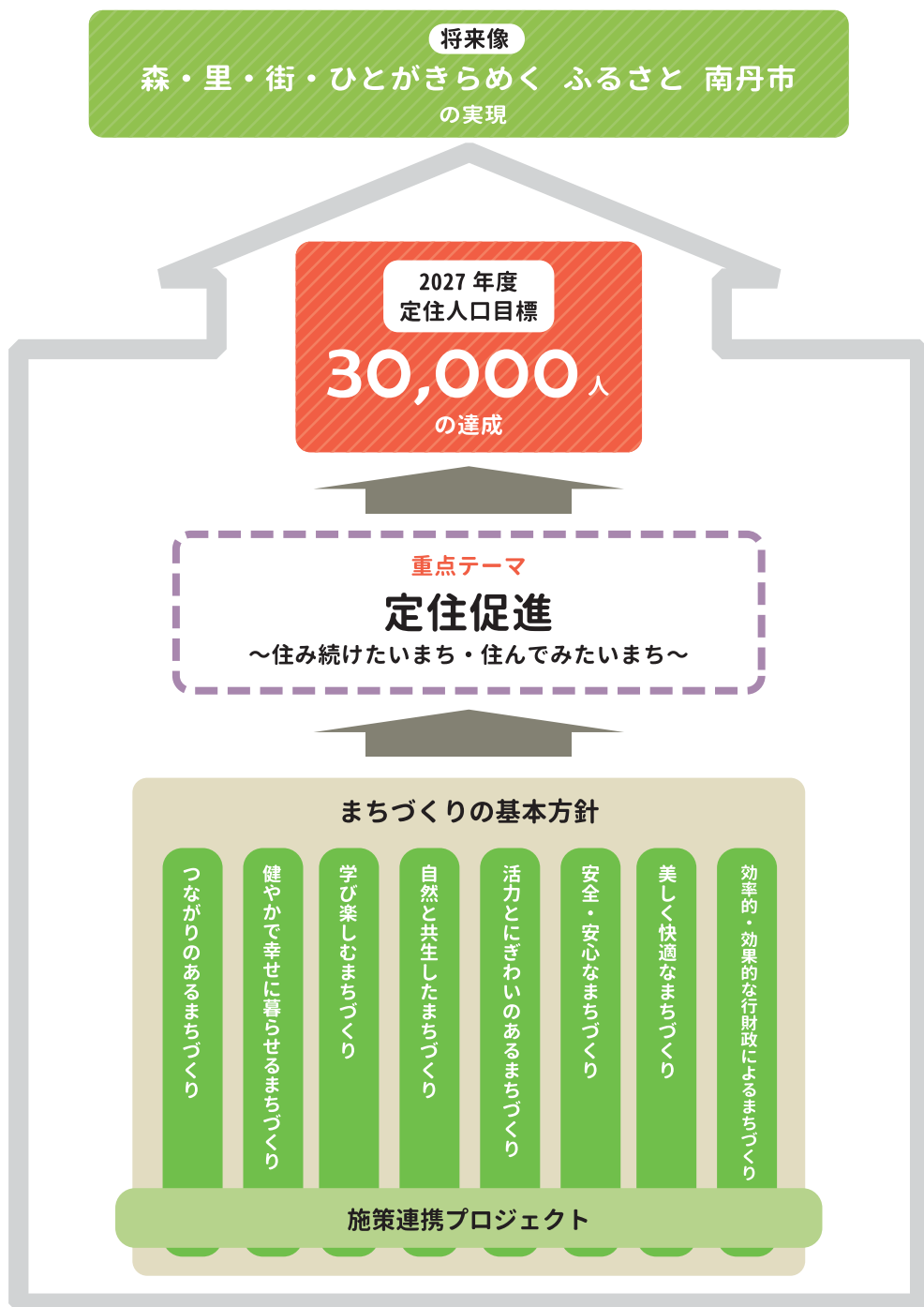
※総合振興計画とは・・・

南丹市総合振興計画は、市が実施するあらゆる分野における施策について、長期的な視点に立ってとりまとめたまちづくりの指針となる計画です。

10年後のまちの将来像として、『森・里・街・ひとがきらめくふるさと南丹市』を掲げます。また、まちの将来像の実現に向けては、まちの魅力や特徴を最大限に発揮した移住・定住対策が必要不可欠と考え、「定住促進」を本計画の重点テーマに掲げます。

本計画の目標年度である2027年度の人口フレームについては、定住人口の目標を30,000人、交流人口の目標を280万人としてそれぞれ設定します。

＜まちの将来像と重点テーマ、定住人口目標、まちづくりの基本方針等の関係図＞



## 方針 1

## つながりのあるまちづくり

- 人権・コミュニティ・協働 -

性別や年齢などにとらわれず、市民一人ひとりの人権を尊重することをまちづくりの基本に、国内外のさまざまな交流活動を推進し、多文化共生のまちづくりを進めます。

まちづくりの基盤となる地域コミュニティの維持・活性化に向けては、地域主体の活動を支援しつつ、南丹市の地域特性に適した地域自治制度の在り方を検討します。

さらに、複雑化・多様化する地域課題に対して、市民や地域、事業者、学校、行政などの多様な主体がさらに連携し、協働によるまちづくりを図ります。



施策 1：人権の尊重

施策 2：男女共同参画社会の推進

施策 3：地域コミュニティ活動の活性化

施策 4：協働のまちづくりの推進

施策 5：交流活動の推進

## 方針 2

## 健やかで幸せに暮らせるまちづくり

- 保健・子育て・医療・福祉 -

誰もが生涯を通じて健やかでいきいきと暮らすことができるよう、市民一人ひとりの健康づくりや食育の推進、生活習慣病予防に取り組むとともに、関係機関との協力のもと、病院や医院、診療所との連携をさらに強化し、地域医療の充実を図ります。

また、安心して住み続けられるよう、地域ぐるみによる福祉のまちづくりを推進するとともに、子育て支援をはじめとする各種福祉サービスの充実を図ります。

各種社会保障については、市民生活のセーフティネットとして、その充実と安定に努めます。



施策 1：健康づくりの推進

施策 2：地域福祉の推進

施策 3：子育て支援の充実

施策 4：高齢者福祉の充実

施策 5：障害者福祉の充実

施策 6：地域医療体制の充実

施策 7：社会保障の充実

## 方針 3

# 学び楽しむまちづくり

- 教育・文化・スポーツ -

幼児・児童生徒一人ひとりに、生涯にわたって学び続けることができる基礎学力の習得を図りながら、「ふるさと南丹市」を愛する心を育み、未来に向かってたくましく生きる力を地域総がかりで育成します。

また、市民一人ひとりが、いきいきと学び続けることができる生涯学習社会の構築をめざし、互いにつながり合い、豊かに生きるために必要な学習機会の充実や文化・スポーツ活動の推進を図ります。



- 施策 1：家庭教育や幼児教育の充実
- 施策 2：学校教育の充実
- 施策 3：生涯学習の推進
- 施策 4：伝統文化の継承
- 施策 5：生涯スポーツ環境の充実
- 施策 6：青少年の健全育成

## 方針 4

# 自然と共生したまちづくり

- 環境 -

り渓や芦生研究林、美山川清流など、南丹市に残る豊かな自然を次世代に引き継ぐとともに、市民や地域、事業者、行政などがそれぞれの役割分担に応じた環境保全活動や美化活動に取り組み、人と自然が共生し、公害のない、きれいな環境が維持されるまちづくりを進めます。

また、地球にやさしいエネルギー対策や環境学習を進めるとともに、持続可能な循環型社会をめざすため、ごみの減量化・再利用化・再資源化を図る環境 3R を推進します。



- 施策 1：自然環境の保全
- 施策 2：生活環境の向上
- 施策 3：地球環境の保全
- 施策 4：資源循環型社会の形成

※3R：Reduce（リデュース：ごみを減らす）、Reuse（リユース：繰り返し使う）、Recycle（リサイクル：資源として再利用する）の3つの語の頭文字をとった言葉

## 方針 5

## 活力とにぎわいのあるまちづくり

## - 産業振興 -

南丹市の豊かな自然環境や歴史・文化資源などを活用し、まちの魅力を市内外に積極的に発信するとともに、4 町の地域資源をつなげた観光プログラムづくりやエコツーリズムの推進などにより、新たな魅力づくりに努めます。

また、地域の基幹産業である農林水産業の振興や、地域経済と暮らしを支える商工業の振興を図るとともに、多様な展開による「なんたんブランド」の確立に努めます。

さらに、就労支援や就労環境の充実により、雇用の安定を図ります。

※エコツーリズム：観光や旅行を通じて、自然環境や歴史文化など地域固有の魅力を伝えることにより、自然保護や環境保全への理解を深めようという考え方。また、そのような旅の仕方。



- 施策 1：観光の振興
- 施策 2：エコツーリズムの推進
- 施策 3：農業の振興
- 施策 4：林業の振興
- 施策 5：工業の振興
- 施策 6：商業の振興
- 施策 7：雇用の安定

## 方針 6

## 安全・安心なまちづくり

## - 危機管理 -

東日本大震災や 2013（平成 25）年に発生した台風 18 号の被害を教訓として、誰もが地震や台風などの自然災害から守られ、安全で安心して生活することができるよう、地域や関係機関などと連携した総合的な防災体制の強化を図ります。

また、防犯や交通安全、消防などの生活安全については、身近に潜む危険に対する意識の啓発や地域ぐるみでの取り組みの促進、関係機関との連携による対策の強化に努めます。

消費生活についても、意識の啓発や相談体制の強化に努めます。



- 施策 1：災害対策の充実
- 施策 2：防犯活動の強化
- 施策 3：交通安全対策の強化
- 施策 4：消防・救急体制の充実
- 施策 5：消費生活の安定と向上

## 方針 7

# 美しく快適なまちづくり

### - 都市基盤 -

南丹市らしい、魅力的で秩序ある土地利用を推進するため、景観に配慮しつつ、公園・緑地の整備や住宅・住環境の充実、市街地の整備・活性化を図ります。

また、河川や道路網の整備、上下水道については、活力のあるまちを支える都市基盤として、適切な整備と維持管理を行います。

さらに、いつでも快適に暮らせる生活環境の向上を図るため、公共交通機関の利便性向上を進めるとともに、ハード・ソフト両面での情報通信基盤の充実に努めます。



- 施策 1：都市計画の推進
- 施策 2：市街地の充実
- 施策 3：景観の保全・形成
- 施策 4：公園・緑地の整備
- 施策 5：住宅・住環境の充実
- 施策 6：上水道の充実
- 施策 7：下水道の充実
- 施策 8：河川環境の整備
- 施策 9：道路網の充実
- 施策 10：公共交通の充実
- 施策 11：情報通信基盤の充実

## 方針 8

# 効率的・効果的な 行財政によるまちづくり

社会情勢の変化などにより、行政需要はますます増大することが予想されるため、今後さらに財源の確保による財政基盤の確立を図るとともに、民間活力の導入や広域連携などによる行財政改革を推進し、最少の経費で最大の効果を発揮するべく、将来にわたって持続可能な行財政運営を行います。

また、市民の視点に立ち、迅速で利便性の高い行政サービスが提供できるよう、職員一人ひとりの意識改革や能力の向上、行政組織の活性化に努めるとともに、電子自治体の推進や公共施設のさらなる活用を図ります。

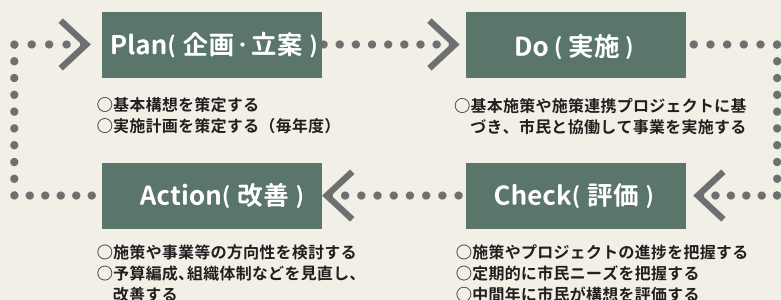


- 施策 1：持続力のある財政運営の推進
- 施策 2：行政サービスの向上

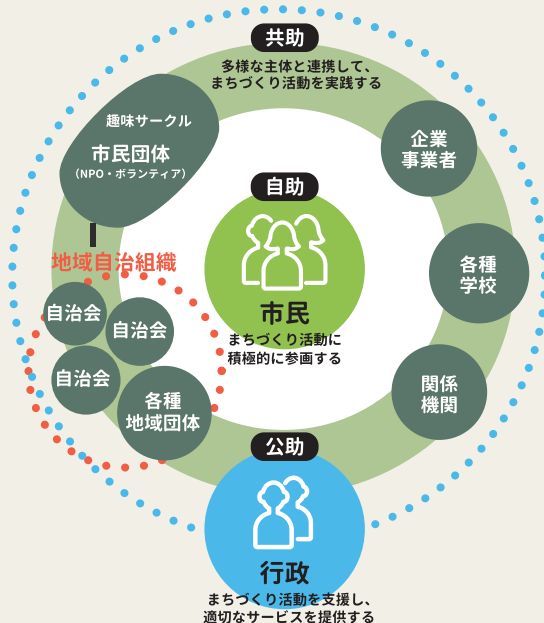
## 1. 協働によるまちづくりの推進／計画の進行管理

市民・各種団体・事業者・行政などが、それぞれ右図のような役割分担のもと、十分な協力・連携を図りつつ、一人ひとりができることから行動を起こすことで、協働によるまちづくりを進めていきます。

また、本計画を着実に推進していくため、PDCAサイクルに基づく進行管理により、効果的・効率的な行政運営につなげます。



協働のまちづくりのイメージ



## 2. 施策連携による計画の推進

異なる分野の施策を連携させることで相乗効果を生み出すため、「施策連携プロジェクト」を設定し、行政内部の連携のみならず、市民や関係機関・団体、事業者等とも連携し、協働による推進を図ります。

施策連携プロジェクト	<p><b>プロジェクト1 なんたん健幸(けんこう)都市プロジェクト</b></p> <p>健康寿命の延伸に向けて、地域ぐるみの「健康づくり」等をベースに、南丹市の豊かな農作物を通じた「食と健康」、農業や交流事業などへの参加を通じた新たな「生きがいがづくり」を推進し、健康増進が地域経済の活性化につながる取り組みの検討を進めます。</p>
	<p><b>プロジェクト2 地域とともにある学校づくりプロジェクト</b></p> <p>地域・家庭・学校がめざす子ども像や地域の在り方を共有するとともに、連携・協働してその実現に向けて取り組むことで、地域への愛着を深めた南丹市の将来の担い手育成につなげます。</p>
	<p><b>プロジェクト3 まるごと体験交流ツーリズムプロジェクト</b></p> <p>行政や民間事業者、地域団体、大学等が連携し、多様な視点からアイデアを出し合い、魅力的な体験プログラムの企画・運営を通じて、地域経済の活性化を図ります。</p>
	<p><b>プロジェクト4 バイオマスを中心としたグリーンプロジェクト</b></p> <p>バイオマスなどのエネルギー資源の利活用を広げ、農林業の活性化やエネルギーの地産地消を進めて、さらに環境学習などにつなげることで、地域経済や市民活動の活性化などを図ります。</p>
	<p><b>プロジェクト5 「なんたんブランド」プロモーションプロジェクト</b></p> <p>市内の個性ある資源を生かした「なんたんブランド」の確立と、さらに定住促進や観光・農林業の振興、豊かな自然環境の保全など、多分野でのブランドの活用を図ります。</p>

<p><b>第2次南丹市総合振興計画</b></p> <p>基本構想 概要版</p> <p>2018年3月発行</p>	<p>発行：南丹市</p> <p>編集：南丹市 企画政策部 定住・企画戦略課</p> <p>〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47番地 電話 0771-68-0001(直通)</p>
---	--

※より詳細な計画の内容をお知りになりたい方は「第2次南丹市総合振興計画」の本編をご覧ください。